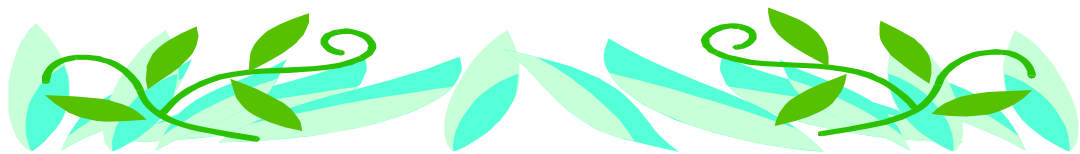




平成26年度

第1回「公開事業評価（かわちながの版外部行政評価）」



平成26年10月 4日（土）
午前9時30分～午後4時20分

河内長野市役所
会場（8階 802会議室）

「公開事業評価（かわちながの版外部行政評価）」を傍聴の皆さまへ

本日は、お越しいただきまして、まことにありがとうございます。
開催中は、下記の点にご注意くださいますようお願いいたします。



○会議の傍聴について

- (1) 傍聴は、お静かにお願いします。
 - (2) 事業評価に際して、傍聴の皆さまからのご質問等は、一切受け付けられませんのでご了承ください。
 - (3) 発言内容に公然と批判を加えたり、発言や拍手その他の方法で公然と意見を表明しないでください。
 - (4) 傍聴者の意思を表明するもの（旗、プラカード、横断幕など）を持ち込まないでください。
 - (5) 携帯電話は、電源をお切りいただくか、マナーモードに設定ください。
 - (6) 録音や写真・ビデオ撮影などはご遠慮ください。
 - (7) 会場内の秩序を乱し、または、作業の支障になる行為はしないでください。
 - (8) 事業評価スケジュールは、多少前後するおそれがありますのでご了承ください。
 - (9) 報道関係者が入ることがありますのでご了承ください。
 - (10) その他会場内では、係員（スタッフ）の指示に従ってください。
 - (11) 会場敷地内は、全面禁煙となっておりますので、ご協力をお願いします。
- ※これらの事項を守っていただけない場合は、ご退場いただくことがあります。



○事業評価について

- (1) 事業評価の結果が市の最終判断ではなく、評価の結果を参考に方向性を検討し、その結果については、公表し、また必要に応じて、施策や翌年度以降の予算編成に反映するものです。
- (2) 受付時にお渡ししたアンケート用紙に、当事業評価に対するご意見・ご感想をご記入いただき、お帰りの際にお近くの職員にお渡しいただくか、回収箱にお入れください。今後の取組みの参考とさせていただきますので、ご協力をお願いします。

○録画配信について

- (1) 本日の会議の録画映像を、後日市ホームページで配信いたします。

1. 会場およびスケジュール

会 場	市役所8階 802会議室		
予定時間	No.	事業名（対象施設名）	担当課
9:30～ 9:50		開会式 あいさつ	
10:00～11:10	1	集会所整備補助事業	自治振興課
11:20～12:30	2	スポーツ施設管理運営事業 （市内のスポーツ施設）	文化・スポーツ振興課
12:30～13:30		昼食休憩	
13:30～14:40	3	図書館事業	図書館
14:50～16:00	4	社会教育課題対応事業	ふるさと交流課
16:10～16:20		講 評	

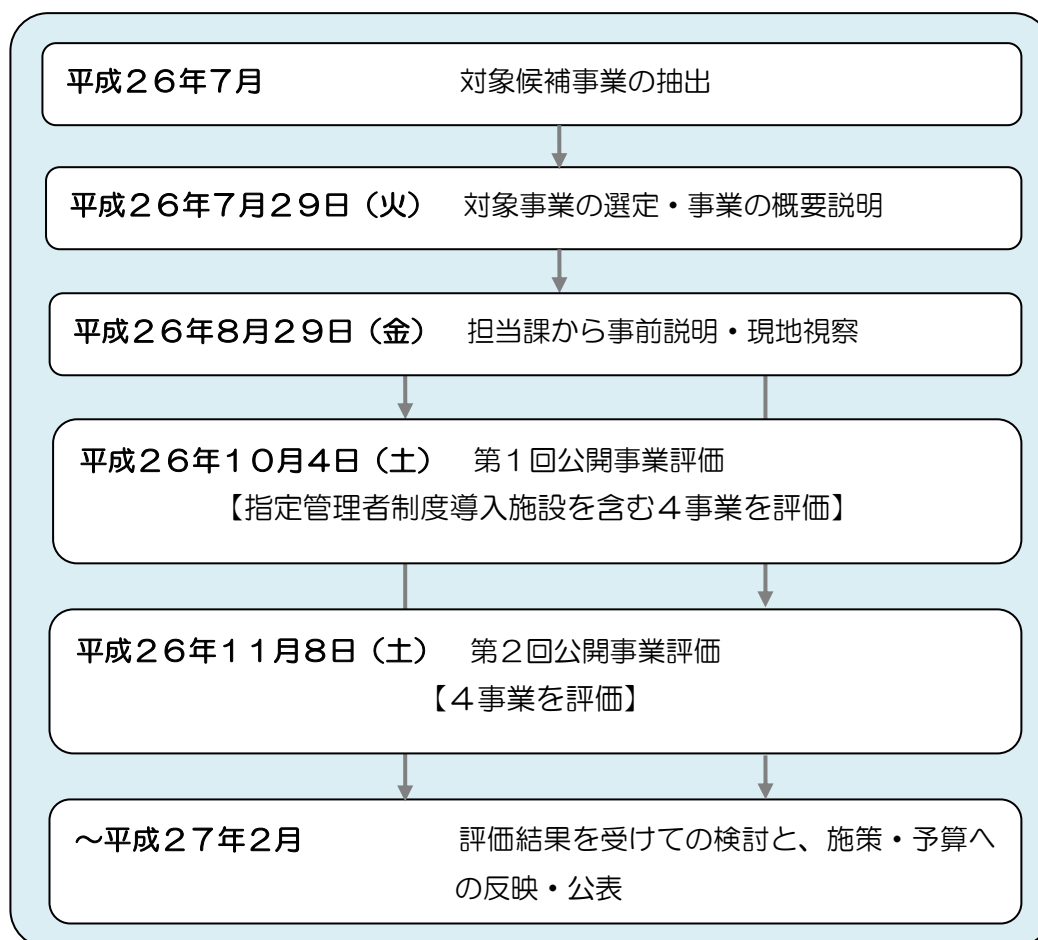
2. 公開事業評価（かわちながの版外部行政評価）とは

市が行った行政評価（内部評価）の結果を市民の視点や専門的見地から検証することで、評価の客観性を確保するとともに、事業の改善の方向性などを検討するために実施するものです。

○期待される効果等

- ・ 外部の視点で事業を改善
- ・ 市民への説明責任を果たす
- ・ 事業の再構築などにより行政資源を有効活用

○全体の流れとスケジュール



○対象事業の選定について

指定管理者制度の適正かつ確実な運用を図るとともに、指定管理者制度導入施設のより良い管理運営と施設利用者へのサービスの一層の向上を図ることを目的として、平成26年度で指定管理者の指定後3年目を迎えるスポーツ施設を評価対象としました。

また、他の3事業は、市が抽出した候補事業の中から、評価者の投票により決定しました。



3. 評価者

河内長野市行財政評価委員会（7名）が評価者となります。

委員区分	氏 名	備 考
委員長	ナカガワ イク オ 中川 幾郎	帝塚山大学名誉教授
委員（学識経験者）	ノウノ ヒロハル 農野 寛治	大阪大谷大学教授
委員（市民団体代表）	タニグチ レイゾウ 谷口 禮三	加賀田地区連合町会
	ハヤシ レイコ 林 玲子	team あごら
	ヤマダ ジュンコ 山田 淳子	特定非営利活動法人かわちながの 市民公益活動推進委員会
委員（市民公募）	サイス ノリコ 斉須 紀子	
	ホンジョウ タケヒサ 本城 武久	

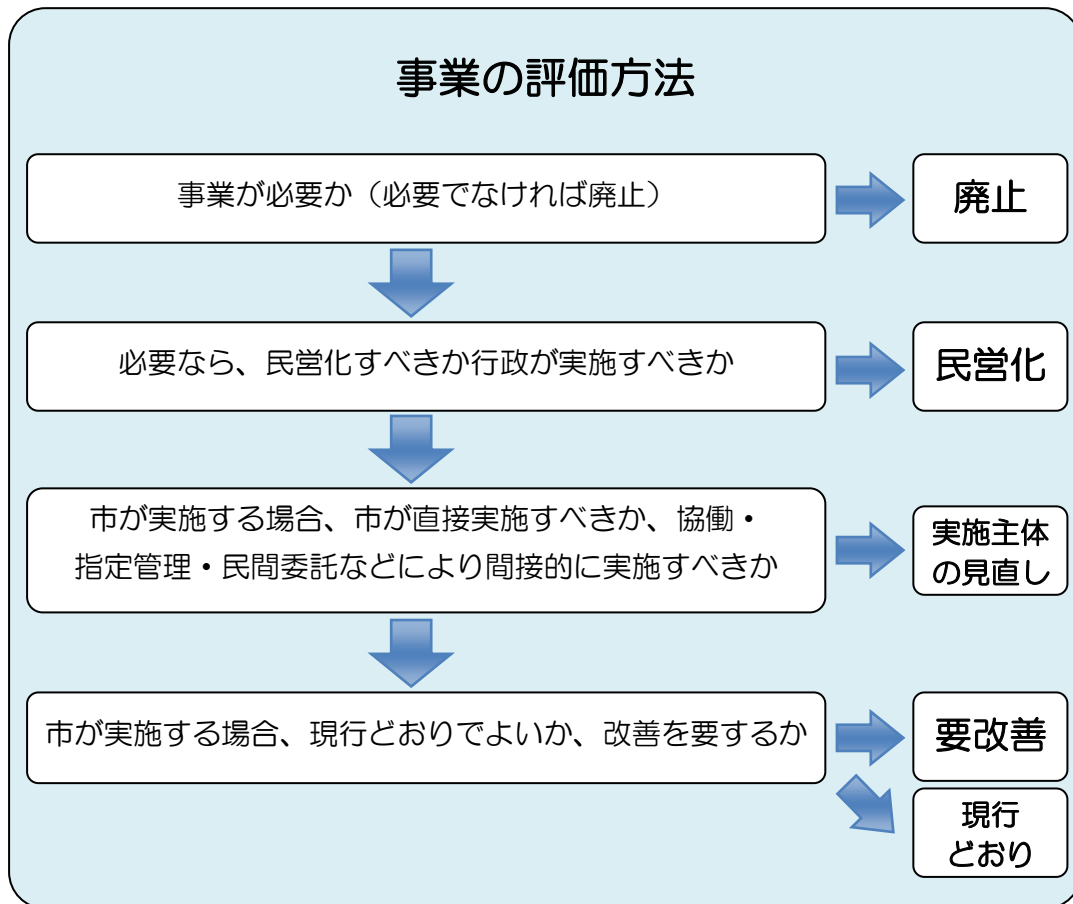
4. 各事業の時間配分

1 事業概ね70分として、次のような時間配分で評価します。

項 目	目安時間	内 容
①事業概要説明 （市職員）	15 分	事業説明資料に基づき、市職員が、事業の目的・内容・コスト・目標などについて説明
②意見交換 （評価者⇄市職員）	30 分～35 分	評価者が、事業説明資料や市職員の説明について質問し、市職員と意見交換
③意見交換 （評価者⇄委員長）	10 分～15 分	委員長及び評価者が、5つの評価区分に分類できるように、事業のあるべき姿・方向性等を議論
④評価・コメント （委員長）	5分	委員長が意見交換を踏まえて、評価者が評価した内容を取りまとめ、評価結果として発表

5. 評価方法

各事業を、下記の5つの分類で評価します。



6. 評価を受けての検討と施策や予算への反映

市では、公開事業評価の評価結果を十分に踏まえながら、今後の方向性を検討し、必要に応じて、施策や翌年度以降の予算編成に反映させるものとします。

なお、検討結果については、河内長野市行財政評価委員会に報告するとともに、市ホームページで公表します。

※ 事業評価の結果が、市の最終判断ではなく、評価結果を参考に、必要に応じて検討するものです。

事業説明資料の見方

1. 事業情報（左ページ）

事業の第4次総合計画上での位置付けです。事業の実施によりここに記載されている施策の実現をめざします。

決算書掲載頁 93

所管課		
総合政策部市魅力戦略課		
まちづくりの目標(中)		施策分野(節)
第5章 自律協働都市		01 協働
		01 市民参加を推進する
事業目的・目標	事業の決算額や財源内訳等を記載していますが、千円未満を四捨五入していますので、各細事業に掲載する数値の合計額が事業の数値と一致しない場合があります。	
	また、ホームページ等によって、よりわかりやすく、目を通しやすくなる。また、ホームページについては、市外居住者など本市の魅力積極的に発信することによって、観光客の増加につながる機会も多いのである。	
	このようにして、よりよいまちづくりに貢献していきます。	
	さらに、市民参加の促進を図ります。	
事業費・財源	事業費(決算額)(千円)	26,645
	一般財源	26,645
	国庫支出金	0
	地方債	447
	その他特定財源	2,711
貢献度	総コスト(千円)	49,899
	世帯あたり(円)	1,056
	根拠	市の情報発信の中心として、事業を実施。
	策に対する事業貢献度	A
	今後の方向性	広報紙、ホームページ、市政パンフレットなどの情報媒体に市民の声できるだけ反映し、市と市民の間により良い相互理解と協力関係構築のため、ホームページ等による情報発信や報道機関との連絡調整を行い、定住促進の観点から在外居住者も情報の受け手としてPRに努める。

第4次総合計画の施策目標実現のために、事業がどの程度貢献しているかを記載しています。

A：非常に貢献している
B：貢献している
C：貢献していない

事業の目標達成に向けた次年度以降の市としての取組みの方向性を記載しています。

2. 事業評価の基準

以下の基準に基づき、事業の担当課で評価を行った結果を記載しています。

妥当性	効率性	有効性
第4次総合計画の施策の目的達成のための手段として必要か、また内容は適正かを評価します。	より少ない経費でより大きな成果をめざす、費用対効果の視点からの評価です。	予定していた事業内容のとおりに事業を実施することができたかどうかの評価です。
A：施策目的達成のための手段として必要で、内容も適正。 B：施策目的達成のための手段として必要ではあるが、内容について検討する余地がある。 C：施策目的達成のための手段としての必要性が乏しい、または、内容を大幅に改善する必要がある。	A：少ない経費で効率良く成果をあげており、費用対効果が高い。 B：経費の削減に関して検討の余地がある、または、同じ経費でも成果の向上が期待できる。 C：経費に対する成果が少なく、実施手法の改善を要する。	A：予定していた事業内容どおり結果を残すことができた。 B：概ね予定していた内容を達成できたが、まだ検討の余地がある。 C：当初予定していた事業内容と実施結果に相違があり、改善を要する。

3. 細事業情報（左ページ）

事業 優先順位	1	細事業・広聴	事業 番号	01					
目的	市政情報の提供や市民の市政を行う。		視覚障がい者に配慮した広報活動						
目標	細事業の事業費と、財源の内訳を表示しています。		細事業の開始年度を記載しています（開始年度が昭和47年度以前の場合は「昭和47年度以前」と記載しています）。						
事業費・財源	25年度 平成24年度 比較		平成25年度 平成24年度 比較						
事業費・財源	事業費（決算額）（千円）	22,712	23,195	-483	総コスト（千円）	22,712	43,033	-2,785	
	一般財源	20,395	21,865	-1,470	内訳	事業費	22,712	23,195	-483
	国庫支出金	45	0	45		人件費	17,536	19,838	-2,302
	地方債	0	0	0		公債費	0	0	0
	広告料収入	2,272				材料費	260	381	-21
							913	-61	
		0				2.50	-0.20		
						0.00	0.00		
今後の方向性	市政の情報を迅速、正確に伝える。また、視覚に障がいのある市民を対象とした広報活動を実施し、内容の充実させるとともに写真の配置やレイアウトを工夫、文字サイズを大きくすることなどによって、よりわかりやすい広報紙とする。				して、月1回発行する。				
評価	妥当性 B	効率性 A	有効性 A	対象者	広報紙印刷部数 48,300部×12ヶ月＝579,600部 声の広報配布人数 31名				

細事業の実施結果を、妥当性・効率性・有効性の3つの視点から評価しています。評価の基準は次頁のとおりです。

細事業がどのような人・物を対象としているかを記載しています。

4. 細事業評価の基準

以下の基準に基づき、細事業の担当課で評価を行った結果を記載しています。

妥当性	効率性	有効性
事業の目的達成のための手段として必要か、また内容は適正かを評価します。	より少ない経費でより大きな成果をめざす、費用対効果の視点からの評価です。	予定していた細事業内容のとおり細事業を実施することができたかどうかの評価です。
A：事業目的達成のための手段として必要で、内容も適正。 B：事業目的達成のための手段として必要ではあるが、内容について検討する余地がある。 C：事業目的達成のための手段としての必要性が乏しい、または、内容を大幅に改善する必要がある。	A：少ない経費で効率良く成果をあげており、費用対効果が高い。 B：経費の削減に関して検討の余地がある、または、同じ経費でも成果の向上が期待できる。 C：経費に対する成果が少なく、実施手法の改善を要する。	A：予定していた事業内容どおり結果を残すことができた。 B：概ね予定していた内容を達成できたが、まだ検討の余地がある。 C：当初予定していた事業内容と実施結果に相違があり、改善を要する。

※ 人件費について

各事業・細事業に関連する人件費として、各事業・細事業に従事する職員数に平均人件費（正職員 7,624,385 円、再任用職員 2,077,024 円）を乗じた金額を記載しています。

※ 公債費について

事業・細事業に関連する市債の元利償還金を記載しています。

※ 一人あたり、世帯あたりコストについて

事業・細事業の総コストを、平成26年3月末現在の人口（111,683 人）、世帯数（47,259 世帯）で除した金額を記載しています。

5. 右ページの見方

事業：○○○○事業

1. ♦♦♦♦♦♦♦♦

事業の目的や概要などを記載
しています。

細事業：□□□□□事業

1. ●●●●●●●

「△△△△△△」※ △△△△△△（事業等）に当該年度中発生した事業

上記の事業をさらに細分化した事業を「細事業」として掲載しています。

細事業ごとに当該年度で実施した事業内容
や成果等を記載しています。

✱ △△△△△△△△

000

 OO_2

難解な行政用語等を説明する場合は、本文中にアンダーライン（波線）を引き、※を付けて下部に説明文章を記載しています。

事業説明資料

①

事業名称 集会所整備補助事業

担当課	市民生活部 自治振興課
事業の 現状と課題	【現状】 地域のコミュニティ活動の拠点を確保するため、集会所を整備しようとする市内の自治会・町会等に対し、補助を行っているが、当課で把握している集会所だけで市内に177戸存在し、そのうち築30年以上経過している集会所が70戸近くあるため、年度間で補助金の交付予算に大きな変動がある。 今後増加が予想される補助額を抑制し、継続可能な制度を樹立するため、「備品購入費のみ」への補助を平成24年度から廃止するなど、定期的に制度の見直しを行っている。 【課題】 今後、自治会からの集会所の建て替えや大規模な改修事業への補助要望が、増加、集中する可能性があり、予算確保の観点から調整が必要となってくる。 集会所を管理する自治会にとっても、今後、集会所の建て替え等にかかる費用が自治会の財政を圧迫する状況が迫ってきており、それと同時に、市も地域のコミュニティ活動の拠点の確保という視点で長期的な対応策が必要となってきた。
要検討事項	○集会所整備補助金の交付予算の平準化 できる限り自治会からの情報を迅速に収集し、補助金交付の予算の平準化を図っていく必要があるため、集会所を管理する自治会に対して、制度利用前に事前協議をお願いしているところであるが、自治会によっては事前の相談もなく、急に改修等に取り組みられるところも見受けられ、市として、どのように計画的に平準化を図っていくのか検討が必要である。

所管課		市民生活部自治振興課														
施策の大綱	まちづくりの目標(章)		施策分野(節)		施 策											
	第5章 自律協働都市		02 コミュニティ		02 地域の活動拠点を確保する											
	事業：集会所整備補助事業												整理番号	1353		
目的	集会所を整備しようとする市内の自治会・町会等に対し、補助を行う。															
目標	コミュニティ活動の拠点を確保し、地域コミュニティの活性化を図る。															
事業費・財源	事業費(決算額)(千円)		34,526		コスト情報・評価	総コスト(千円)		35,288		総合評価 A 評価理由 自治会からの要望に基づき、全ての案件について対応できたため。	妥当性		A			
	財源内訳	一般財源		34,526		内訳	事業費		34,526		効率性		A			
		国府支出金		0			人件費		762		有効性		A			
		地方債		0			公債費		0							
		その他特定財源		0			一人あたり(円)		316							
							世帯あたり(円)		747							
	貢献度	施策に対する事業貢献度		A		根拠	自治会からの要望に基づき、全ての案件について対応できたため。									
今後の方向性	できる限り自治会からの情報を迅速に収集し、予算の平準化を図っていく。															

事業優先順位		1	細事業：集会所整備補助事業					整理番号	01			
目的		地域の活動拠点を確保するため、集会所を整備しようとする市内の自治会等に対し、補助金を交付する。										
目標		集会所の整備に市が補助金を交付することにより、住民が快適に使用できる地域の活動拠点づくりを支援する。										
事業実施主体		直営	事業開始年度	昭和47年度以前	根拠法令	河内長野市集会所整備事業補助金交付要綱						
事業費・財源	財源内訳			平成25年度	平成24年度	比 較	コスト情報・従事職員数 内 訳 参 考			平成25年度	平成24年度	比 較
		事業費（決算額）（千円）		34,526	19,056	15,470		総コスト（千円）		35,288	22,468	12,820
		一般財源		34,526	19,056	15,470		事業費		34,526	19,056	15,470
		国府支出金		0	0	0		人件費		762	3,412	-2,650
		地方債		0	0	0		公債費		0	0	0
		その他特定財源		0	0	0		一人あたり（円）		316	199	117
				0				世帯あたり（円）		747	476	271
				0				職員数（人）		0.10	0.43	-0.33
				0				再任用職員数（人）		0.00	0.00	0.00
		今後の方向性		できる限り自治会からの情報を迅速に収集し、予算の平準化を図っていく。								
評価	妥当性	効率性	有効性	対象者	集会所177箇所（平成26年3月31日現在）を管理する136自治会							
	A	A	A									

事業：集会所整備補助事業

1. 集会所整備事業補助

地域住民の自主的な活動を推進し、コミュニティづくりと自治会活動の活性化を促すため、地域における活動の拠点である集会所※を整備しようとする市内の自治会・町会等に対し、補助を行った。

※ 集会所

…自治会・町会等が所有・管理する地域のコミュニティに供する施設の総称。呼称としては、「自治会集会所」「自治会館」「公民館」「老人倶楽部集会所」など様々であるが、市では、呼称に関係なく、所有・管理形態により補助対象としている。

細事業：集会所整備補助事業

1. 集会所整備事業補助

下記のとおり、補助金を交付した。

<集会所整備事業補助金交付実績>

主となる事業※	件数	事業費総額（円）	補助金額（円）
新築等	2	96,060,000	24,000,000
改修	18	21,426,517	10,526,000
合 計	20	117,486,517	34,526,000

※ 主となる事業の区分について

…新築等とは、新築、増築、改築、大規模改修（対象経費1000万円を超える改修事業）をいう。

改修事業とは、対象経費1000万円未満事業をいう。

新築等事業の補助間隔は10年、改修事業の補助間隔は5年としている。

【写真は、新築（建替え）された楠台自治会館（左）と日野地区集会所（右）】



事業(細事業)及び指定管理者説明資料

②

事業名称 **スポーツ施設管理運営事業**

施設名称 **市内のスポーツ施設**

担当課	生涯学習部 文化・スポーツ振興課
事業の 現状と課題	本事業の指定管理者は、市内29のスポーツ競技団体で構成するNPO法人河内長野市総合スポーツ振興会であり、①スポーツ施設管理業務（市内13施設の利用許可や施設、付属設備等の維持管理に関する業務）と②スポーツ振興関連事業業務を実施している。 ①スポーツ施設管理業務について スポーツ施設を頻繁に利用するスポーツ競技団体で構成されている特性を生かし、利用者からの情報に基づき、軽微な修繕に対して速やかに対応するなど、利用者の意見を反映させた施設の維持管理を実施していることから、評価シート「施設の維持管理」の市側評価点を「4」とした。 ②スポーツ振興関連事業業務について 競技スポーツ者だけではなく、未就学児や高齢者など、幅広い世代を対象に、平成25年度において自主事業（5事業）と市受託事業（6事業）を実施した。構成するスポーツ競技団体と連携・協力し、地域密着型で健康づくりやスポーツ機会の提供を実施していることから、評価シート「利用者サービスの向上 ①施設設置目的との整合性」の市側評価点を「3」とした。 これまで、本市のスポーツ振興施策は、同振興会との「協働」で進めてきており、今後においても、その「協働」関係を深め、発展させたいと考えている。今回の評価を踏まえ、平成26年度を含め残り3年間で、利用者サービスの向上につながるスポーツ振興関連事業の充実を図ることが課題と考える。
要検討事項	課題となる利用者サービスの向上につながるスポーツ振興関連事業の充実を図るため、地域密着型の特性を生かした事業を拡大・充実する必要があると考えますので、この観点から、ご議論をお願いしたいと存じます。

所管課		生涯学習部文化・スポーツ振興課															
施策の大綱	まちづくりの目標(章)		施策分野(節)		施 策												
	第3章 元気創造都市		06 市民スポーツ		02 スポーツ振興の環境を整える												
	事業：スポーツ施設管理運営事業										整理番号	0592					
目的	市民が身近にスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設の運営管理を行い、施設利用における利用者の安全の確保と利便性の向上を図る。																
目標	スポーツに親しむことができる場を確保し、スポーツの推進を図るとともに、施設利用における利用者の安全の確保と利便性の向上を図る。																
事業費・財源	事業費(決算額)(千円)		99,986		コスト情報・評価	総コスト(千円)		111,794		総合評価	A	妥当性		A			
	財源内訳	一般財源		78,949		内訳	事業費		99,986			効率性		A			
		国府支出金		0			人件費		2,287			有効性		A			
		地方債		0			公債費		9,521		適正な施設の運営管理を行った。						
		その他特定財源		21,037			一人あたり(円)		1,001								
							世帯あたり(円)		2,366								
	評価理由																
貢献度	施策に対する事業貢献度		A		根拠	適正な施設の運営管理を行った。											
今後の方向性	円滑なスポーツ施設の運営管理を行い、施設利用におけるさらなる利用者の安全確保と利便性の向上を図る。																

事業優先順位		1	細事業:スポーツ施設管理運営事業					整理番号	02		
目的		スポーツ施設情報システムを運用し、市民に簡単便利なサービスを提供するとともに、スポーツ施設の管理運営の円滑化を図る。									
目標		スポーツ情報システムの円滑な運用管理を行うとともに、市外の方の登録者の拡大を図る。									
事業実施主体		直営	事業開始年度	平成10年度以前	根拠法令	河内長野市スポーツ施設情報システムの利用者登録等に関する規則					
事業費・財源	事業費・財源内訳		平成25年度	平成24年度	比較	コスト情報・従事職員数		平成25年度	平成24年度	比較	
		事業費(決算額)(千円)	99,986	93,865	6,121		総コスト(千円)	111,794	113,766	-1,972	
		一般財源	78,949	71,597	7,352		内訳	事業費	99,986	93,865	6,121
		国府支出金	0	0	0			人件費	2,287	1,984	303
		地方債	0	0	0			公債費	9,521	17,917	-8,396
		体育施設使用料	2	22,268	-1,231			一人あたり(円)	1,001	1,008	-7
		スポーツ施設利用料	20,923				世帯あたり(円)	2,366	2,413	-47	
		オーパス更新料等	112				参考	職員数(人)	0.30	0.25	0.05
								再任用職員数(人)	0.00	0.00	0.00
今後の方向性		円滑なスポーツ施設の運営管理を行い、施設利用におけるさらなる利用者の安全確保と利便性の向上を図る。									
評価	妥当性	効率性	有効性	対象者	スポーツ施設利用者						
	A	A	A								

事業：スポーツ施設管理運営事業

市民が身近にスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設の運営管理に指定管理者制度を導入し、施設利用者の利便性の向上を行った。

細事業：スポーツ施設管理運営事業

1. 施設利用状況

スポーツ施設を安全に使用できるよう施設の維持管理を行い、スポーツ環境の整備に努めた。

単位：人

施設		利用人数	利用率 (%)	施設		利用人数	利用率 (%)
市民総合体育館 (競技場・第2競技場・会議室・ 卓球場・トレーニング室)		132,823	—	寺ヶ池公園野球場		31,025	25.9
				天野少年球技場		19,929	36.3
				武道館		34,638	78.2
運 動 場	大師総合運動場	77,212	61.7	庭 球 場	寺ヶ池公園庭球場	31,959	70.6
	下里総合運動場	56,773	20.3		大師庭球場	12,117	47.2
	赤峰市民広場 (野外ステージ・控室・会 議室・研修室)	113,095	—		荘園庭球場	12,877	26.9
				プ ール	寺ヶ池公園プール	16,447	—
					烏帽子形公園プール	9,085	—
キ ャ ン プ ス	赤峰市民広場	955	—	合 計		549,554	—
	岩湧野外活動広場	619	—				

(※利用率は使用時間を利用可能時間で割って算出)

2. オーパス・スポーツ施設情報システム利用状況（メディア別）

オーパス・スポーツ施設情報システムを引き続き運用し、スポーツ施設の運営を円滑にするとともに、利用手続きの簡素化・迅速化により、サービスの向上を図った。

メディア別	音声	街頭端末	インターネット	携帯ウェブ	業務端末	合計
利用件数	1,747	1,909	45,619	980	6,656	56,911
構成比 (%)	3.0	3.4	80.2	1.7	11.7	100.0

3. スポーツ振興事業

(1) 市民スポーツ大会の開催（計23種目 参加者総数 約9,100人）

バドミントン、バスケットボール、サッカー、ソフトボール、テニス、バレーボール、ゲートボール、少年軟式野球、ソフトテニス、卓球、軟式野球、剣道、少林寺拳法、居合道、陸上競技、水泳、柔道、ペタンク、グラウンドゴルフ、インディアカ、体操フェスティバル、軽スポーツ、スポンジテニス

(2) 大阪府総合体育大会派遣事業（総出場者数 483人）

参加種目 サッカー、ソフトテニス、ソフトボール、卓球、テニス、軟式野球、バスケットボール、バドミントン、バレーボール、剣道

4. 市民スポーツ教室開催事業

(1) トレーニング講習会（実施回数：16回 受講者数：285人）

市民総合体育館トレーニング室の安全かつ効果的な利用を図るため、講習会を開催した。

(2) トレーニング相談（実施回数：12回 相談者数：45人）

市民総合体育館トレーニング室利用者に対し、トレーニング方法などについて、専門トレーナーが指導・相談を行った。

■平成25年度 指定管理者年度評価表

施設名称	河内長野市立市民総合体育館、他12施設		
指定管理者名	特定非営利活動法人 河内長野市総合スポーツ振興会		
対象期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日	担当課	文化・スポーツ振興課

評価項目		評価
サービスの提供	施設の設置目的に沿ってサービスを提供しているか。	○
	使用時間、使用日、使用期間は遵守されているか。	○
	利用者に対する情報提供は適切か。	○
	利用者の安全は確保されているか。	○
	使用の承認、案内等は適切かつ迅速か、また接遇は適切か。	○
	施設の使用率は適正な水準にあるか。	○
	指定管理者が行った事業は、市民サービスの向上に役立ったか。	○
施設管理の維持	建物躯体及び設備機器の保守管理・安全確認等は適切か。	○
	修繕は適切か。	◎
	備品の管理は適切か。	○
	清掃、警備、衛生管理は適切か。	○
その他	サービス提供及び施設の維持管理のため、適正な人員が配置されているか。	○
	苦情等の対応は迅速かつ適切か、また市に迅速に報告しているか。	○
	良好な関係を保つべき関係団体や地域との連絡調整は適切か。	○
	緊急時に備えた、体制、対応マニュアル、研修・訓練等は適切か、また、防火、防犯体制の整備、研修、訓練は適切に行われているか。	○
	個人情報保護のための体制、書類等の整備・保管、問い合わせ等への対応、研修は適切か。	○
	使用料、利用料金の取扱は適切か。	○
	省エネルギー、省資源、環境配慮物品等の購入など環境への配慮はなされているか。	○
	業務を外部委託している場合、その業務は施設管理の主要な部分以外であるか、また、外部委託に過度にシフトしていないか。	◎
	アンケート調査の結果は良好か。	○
	利用者等のニーズを把握し、管理運営に反映できているか。	○
	管理経費は縮減されているか、または、縮減に向けての努力がされているか。	○

評価欄の説明

- ◎：協定等の遵守に加え、指定管理者のノウハウを活かした優れた管理が行われた。
- ：協定等を遵守し、仕様書に沿った管理が行われた。
- △：協定等を遵守し、概ね仕様書に沿った管理が行われたが、一部に課題がある。
- ×：一部、協定等が遵守できていない。又は、不測の事態等により仕様書に沿った管理ができなかった。

■総合評価

市の取り組み成果等	指定管理者である総合スポーツ振興会との連携を密にして、老朽化の著しい施設の情報を的確に入手し、主な取り組みの一つである施設の改修や修繕が迅速に実施できた。また、スポーツ振興の面においても、本振興会並びにスポーツ各種団体と更なる協働による事業展開を行い、市民へのスポーツ振興が図られた。
指定管理者の取り組み・成果等	平成24年度に引き続き、平成25年度においても、安全管理を第一に考え、主に老朽化の著しい施設の点検や修復に取り組んだ。振興会独自で修繕業務を行ったことにより、コストの削減が図られ、その分多くの修繕件数を迅速にこなすことができ、利用者へのサービス向上が図られた。また、自主事業において、子供のための事業「こどもフェスタ」などを開催したり、高齢者の健康実態調査を実施したり、年齢に応じた事業展開を行って成果を上げている。
今後改善や工夫すべき点等	平成25年度までは、老朽化の著しい施設の修復を主な取り組みとして実施してきたが、今後は管理体制を整え、受付業務や申請業務などの事務改善などを行うことにより、更なる市民サービスの向上を図る。
改善に向けた方向性	今後も利用者の安全管理を第一に考えるとともに、新しいスポーツ施設（下里人工芝球技場など）も踏まえた管理体制による市民サービスの更なる向上やスポーツ振興事業についても、子供の体力増進のための新たな事業の取り組みが図られる。

指定管理者モニタリング制度 補足調査表

指定管理者名	特定非営利活動法人 河内長野市総合スポーツ振興会
--------	--------------------------

■公正採用・人権研修・障がい者雇用への対応状況

項目		平成26年4月1日現在
1. 従業員数	①フルタイム労働者（週30時間以上の常時雇用労働者）	4人
	②短時間労働者（週20～30時間勤務）	8人
	③週20時間未満勤務の労働者【参考】	0人
2. 公正採用への対応について	①「一定規模の事業所」該当の有無	非該当
	②「公正採用選考人権啓発推進員」の設置の有無	無
	③②で設置していない場合、その理由	
	④②で設置していない場合、今後の設置予定及び市としての対応状況	
3. 人権研修の実施・受講状況		市の研修を受講
4. 障がい者法定雇用率の達成への取り組み状況	①法定雇用障がい者数	0人
	②雇用する障がい者数	0人
	③②について、フルタイム／短時間労働の別	
	④②について、障がいの内容	
	⑤②について、配属先	
	⑥基準を満たしていない場合、今後の採用予定及び市としての対応状況	

■その他

①定期の履行確認

施設への立入調査の実施状況	実施している ・ 実施していない
---------------	------------------

②利用者アンケート

実施状況	実施している ・ 実施していない
実施方法	主要4施設（総合体育館・赤峰市民広場・武道館・寺ヶ池公園庭球場）にアンケートボックスを設置し、施設利用者に対しアンケートを実施。また、施設利用者だけでなく「健康の日事業」参加者に対してもアンケートを実施。

③利用者からの苦情・要望について

苦情・要望件数	年間（ 43 ）件程度
多く寄せられる苦情・要望	○施設の老朽化による修繕、補修の要望（トレーニング機器の故障、電球切れ、扉破損、雨漏りなど） ○警備員等（清掃員含む）の言動に対する内容 ○施設開場不備に対する苦情

④職員の接遇研修

接遇研修の実施状況	実施している ・ 実施していない
-----------	------------------

⑤避難訓練の実施状況と、緊急時対応の仕組み整備

避難訓練の実施状況	実施している ・ 実施していない
緊急時対応マニュアル等の作成状況	作成している ・ 作成していない

指定管理者評価シート

施設名：河内長野市立スポーツ施設(13施設)

指定管理者名：特定非営利活動法人 河内長野市総合スポーツ振興会

市側評価者名：文化・スポーツ振興課長

評価項目	評価の視点	市評価	評価者評価	評価に対する意見
利用者サービスの向上				
①施設設置目的との整合性	施設本来の目的に沿って運営されているか。	3	3.5	
②利用者アンケートなどの実施・対応	アンケートを実施するとともに、意見は反映されているか。	3	2.7	・アンケートの母数が少ない。回答を呼びかける必要あり。 ・来館者の多くから回答いただくべき。
③意見・苦情の受付・対応	意見や苦情に対して迅速かつ的確に対応されているか。	3	2.7	・一定の対応はできていると伺える。
施設等の維持管理				
	施設、附属設備及び備品等について、協定書に基づき適正に維持管理業務が遂行されているか。	4	3	・設備が古い中、できることはやっている。市側でエアコン等を設置できれば。 ・設備の使いやすさに不満の声があり、検討の余地があるのではないかな。 ・設備が汚い。
その他				
①事業報告書内容の確認	協定書に基づき適正に事業実施されているか。また、実施結果が事業報告書に反映されているか。	3	3.2	
②職員の資質向上	職員の接遇、指導育成、研修体制は適切であるか。	3	2.7	・来館者アンケートの内容では、改善の余地があると考えられる。
③個人情報保護・守秘義務	河内長野市情報セキュリティポリシー遵守事項について遵守されているか。	3	3.2	
④避難訓練、緊急時の対応	緊急時対応マニュアルは作成され、避難訓練などが実施されているか。	3	3	
⑤管理経費の縮減	管理経費は縮減されているか、または、縮減に向けて努力しているか。	3	3	・経費がかかっても、空調など、市民がスポーツを楽しめる施設にしてほしい。
合計点		28	26.8	

最低点 9点
最高点 45点

【市側の評価点】

- 5点：目標や計画を大きく上回る成果があったもの
- 4点：目標や計画を上回る成果があったもの
- 3点：目標計画どおり成果があったもの
- 2点：努力は認められるが、結果的には目標や計画を下回っており、さらに努力が必要であるもの
- 1点：目標や計画を下回っており、指導にもかかわらず、改善努力が足りないもの

【評価委員の評価】

- 5点：特に優れている
- 4点：優れている
- 3点：適正である
- 2点：さらに努力が必要である(改善努力の要請)
- 1点：改善すべき点がある(必要な措置)

事業説明資料

③

事業名称 図書館事業

担当課	生涯学習部 図書館
事業の現状と課題	「自己責任」社会の到来とともに知識と教養を高めるための図書館から個別具体的な個々の課題（ビジネス、企業、起業、就活、生活などでの課題）を解決する手段として図書館が活用・利用される課題解決型図書館への転換が図書館運営での重要な課題・大きな潮流となっています。 本市では、新図書館の開館（平成14年7月）に向け、進展する社会や市民の要請に応えるため「河内長野市立図書館基本計画」（平成7年12月）を策定、計画中には新図書館の重要な機能としてレファレンスサービス（調査相談）があげられ、その機能整備を計画し新図書館にレファレンスコーナーや専門カウンターを設置し、読書相談や調査相談を通じて市民が求める図書館資料等の提供を行っています。また、市民講座をはじめとするソフト面でも転換を目指し、教養的な講座（例えば「源氏物語」の解説的なもの）を開催する一方で「生活に役立つ図書館講座」として「くすりのはなし」「特定保健食品のはなし」やパソコンのセキュリティに関する講座、公的金融機関との連携事業などを開催し市民の関心を集め、課題解決型図書館への転換を図っている。また市民向けサービスとともに行政事務支援として市役所の各課に対して図書館資料を中心とした資料提供を行い、図書館の所有する情報・資料の一層の活用を図っている。 図書館資料に加え市民へのデジタル情報提供サービスを開始し、新聞記事検索、法情報などのデータベースの提供やレファレンス事例集を作成しホームページにおいて公開を実施している。 市としては、時代の進展に即した図書館サービスの充実に努めているが、市民の利用が十分とはいえないのが現状で、図書館のサービスの水準の維持・向上、利用環境の整備とともに、市民の利用促進をより一層進める必要があると考えている。
要検討事項	平成24年12月19日に発表された「公立図書館の設備及び運営上の望ましい基準」（文部科学省告示第172号）は、例示をあげて地域の課題に対応したサービスの実施に努めるよう次のように求めています。 ア 就職・転職、起業、職業能力開発、日常の仕事等に関する資料及び情報の整備・提供 イ 子育て、教育、若者の自立支援、健康・医療、福祉、法律・司法手続等に関する資料及び情報の整備・提供 ウ 地方公共団体の政策決定、行政事務の執行・改善及びこれらに関する理解に必要な資料及び情報の整備・提供 以上のサービスを提供していくためには、図書館のカウンター業務において直接得た市民・団体利用者のニーズが図書館の資料収集方針のもと知識と経験を積んだベテラン司書によって反映された蔵書を中心に展開していくことにより可能であると考えています。 また、課題解決型図書館の転換は施設・資料の整備に市民の利用が相まってのものであり、広報紙、HP やメルマガに加えて近隣の機関（職業安定所、商工会など）や市民ボランティア団体との連携強化により市民に広く PR することが必要と考えています。 市としては、以上の点をふまえながら課題解決型図書館への転換を進めていきたいと考えています。

所管課		生涯学習部図書館															
施策の大綱	まちづくりの目標(章)			施策分野(節)			施 策										
	第3章 元気創造都市			04 社会教育			02 図書館を通じて学習・読書活動を支援する										
	事業：図書館事業													整理番号	0606		
目 的		図書館事業を通じて図書館の利用を高め、利用者の満足を得ること、市民の生涯学習を支援することをめざす。															
目 標		・「第2次子ども読書活動推進計画」に基づいた計画的な施策の推進 ・図書館におけるボランティア活動の場の提供と市民へサービスとしての還元 ・図書館システム(施設・図書館資料・各サービス)が市民に活用されるようにする。 ・各講座・講演会により読書振興を図る。															
事業費・財源	事業費(決算額)(千円)		89,365		コスト情報・評価	総コスト(千円)		129,735		総合評価	A	妥当性		A			
	財源内訳	一般財源		88,749		内訳	事業費		89,365			効率性		A			
		国府支出金		0			人件費		40,370			有効性		A			
		地方債		0			公債費		0			多様な年代の市民に向けて開催した講座などの図書館事業は、多くの市民が図書館へ来館し、資料に触れ読書を楽しむきっかけとなっており、またボランティアの活動の場ともなっている。					
		その他特定財源		616			一人あたり(円)		1,162								
							世帯あたり(円)		2,745								
	評価理由																
貢献度		施策に対する事業貢献度		A		根拠		教育立市「読書のまち河内長野」の実現をめざし、図書館を通じて、学習・読書活動を支援している。									
今後の方向性		子ども読書活動推進計画に基づいて、子どもの読書への関心を高めていく。また、市民のニーズに即した講座やイベントの開催に取り組み、ボランティアの活用と情報発信に努めることで図書館サービスや読書の素晴らしさを広く市民に伝えていく。															

事業優先順位		1	細事業：図書館内サービス事業				整理番号		03				
目的		1. 利用者の満足度を高めること 2. 図書館の利用を促進すること。											
目標		年始特別開館の継続実施。広域相互利用の拡大（河南町・太子町・千早赤阪村・橋本市・五條市）。開館時刻の30分繰上げ。貸出上限冊数10冊を20冊に倍増する。利用者開放端末を設置し、オンラインデータベースによる情報提供サービスを実施。パソコン利用者専用席の設置。											
事業実施主体		直営	事業開始年	平成14年度	根拠法令	図書館法、河内長野市立図書館条例							
事業費・財源	財源内訳			平成25年度	平成24年度	比 較	コスト情報・従事職員数			平成25年度	平成24年度	比 較	
		事業費（決算額）（千円）		89,057	92,702	-3,645		総コスト（千円）		113,763	118,086	-4,323	
		一般財源		88,441	84,610	3,831		内 訳	事業費		89,057	92,702	-3,645
		国府支出金		0	7,311	-7,311			人件費		24,706	25,384	-678
		地方債		0	0	0			公債費		0	0	0
		図書紛失等弁償金		123	781	-165		一人あたり（円）		1,019	1,046	-27	
		コピーサービス料		493				世帯あたり（円）		2,407	2,504	-97	
				0				参 考	職員数（人）		2.75	2.70	0.05
									再任用職員数（人）		1.80	1.80	0.00
		今後の方向性		若い世代により一層利用してもらえる時代に即した情報提供・情報発信の検討を行う。									
評価	妥当性	効率性	有効性	対象者	河内長野市民								
	A	A	A										

事業：図書館事業

1. 「読書のまち 河内長野」の推進

「読書のまち 河内長野」を推進するため、図書館資料の貸出冊数の上限を20冊に拡大、開館時間は30分の繰り上げを行った。また、年始の特別開館を継続実施するとともに平成24年7月から開始した広域相互利用における提携市町村の拡大を行い、市民の生涯学習の場を大きく広げた。ボランティアとの協働面では読み聞かせボランティア講座を実施し、ボランティアの活動支援と図書館サービスの充実を進めた。

また、第2次子ども読書活動推進計画に基づき、学校やボランティアなど関係機関との連携を図りながら、えほんのひろばなどを実施し、子どもたちに読書の楽しさを伝える環境づくりを推進した。

2. 「文化財のまち 河内長野」の推進

本図書館で所蔵する古文書等郷土歴史資料の適切な活用を図るため古文書に関する講座を充実したほか、本市の文化遺産への市民の関心を高めるために、文化遺産講座を開催するなど郷土歴史学習の支援と文化遺産の啓発に努めた。

細事業：図書館内サービス事業

1. 図書館資料利用状況

4月から開館時間を9時30分に繰り上げ、試行的に実施していた図書館資料の貸出上限冊数の10冊から20冊（うち視聴覚資料は2点から4点）への拡大を本格実施した。また、利用者用開放端末を設置し、オンラインデータベースによる情報提供サービスを開始するとともに、パソコン利用者専用席の設置を行い、利便性の向上に努めた。

(1) 貸出

個人貸出（自動車文庫の貸出点数を含む）は1,047,706点（内訳は一般書700,002点、児童書237,224点、視聴覚資料39,979点、雑誌68,607点、録音図書1,894点）、団体貸出は20,721点（自動車文庫・公民館の貸出含む）であった。

(2) 図書館開館日数・入館者数

図書館は320日開館（1月の特別開館日を含む）し、554,416人の入館者があった。

(3) 登録者数（公民館図書室・自動車文庫での登録を含む）

項 目	新 規	総 数
男 性	3,162人	14,192人
女 性	3,021人	21,249人
計	6,183人	35,441人

(4) 資料数 406,767点（図書資料・視聴覚資料・録音図書を含む）

(5) 複写サービス 著作権法に基づく図書館資料の複写サービスを行った。

モノクロ36,653枚 カラー4,205枚

(6) 予約・リクエストサービス

予約・リクエストサービスに対応した件数は164,486件（Web予約102,897件含む）。自館での対応だけでなく府立図書館や近隣の図書館などから延べ6,331冊の図書を借り受けて資料提供に努めた。

2. 障がい者サービス他館内サービス利用状況

墨字の資料を利用するのが困難な利用者、来館が困難な障がい者に向けたサービスの充実に取り組んだ。また、利用者の資料を探すサポートを行う調査相談（レファレンス）サービスの提供にも努めた。

(1) 障がい者サービス

ボランティアによる対面朗読、点字・録音図書の製作のほか、942点の郵送貸出を行った。

(2) 調査相談（レファレンス）サービス

延べ1,365件の調査相談があった。調査用のツールとして、調査事例のデータ化と一部公開を実施した。

事業 優先順位		3 細事業:図書館ボランティア活動推進事業							整理 番号		01								
目的		1. ボランティアのスキルアップ。2. おはなし会、対面朗読などの充実を図る。3. さわる絵本や録音図書などの資料を増やす。																	
目標		おはなしボランティア講座の継続開催																	
事業 実施主体		直営		事業開始 年 度		平成13年度		根拠 法令		図書館法第3条									
事業費・財源			平成25年度		平成24年度		比 較		コスト 情報・従 事職員数			平成25年度		平成24年度		比 較			
	事業費(決算額)(千円)		203		452		-249			総コスト(千円)		6,684		7,594		-910			
	財源内 訳	一般財源		203		452		-249		内 訳	事業費		203		452		-249		
		国府支出金		0		0		0			人件費		6,481		7,142		-661		
		地方債		0		0		0			公債費		0		0		0		
		その他特定財源		0		0		0			一人あたり(円)		60		67		-7		
				0						世帯あたり(円)		141		161		-20			
				0						参 考	職員数(人)		0.85		0.90		-0.05		
			0								再任用職員数(人)		0.00		0.00		0.00		
今後の 方向性		①ボランティア養成講座の継続実施②ボランティアに対するスキルアップ講座の継続実施と情報提供③市内福祉施設への貸出実施(集配送による利便性の向上)																	
評価	妥当性		効率性		有効性		対象者	図書館ボランティア団体及び市内読み聞かせ関連諸団体											
	A		A		A														

事業 優先順位		2 細事業:読書振興事業				整理 番号		02						
目的		1. 講座や講演を通して市民に読書の楽しさを知ってもらう。2. 図書館になじみのない人にも足を運んでもらう機会をつくる。												
目標		生活に役立つ図書館講座、夏休み科学教室、「えほんのひろば」、古文書講座、文化遺産講座等の開催												
事業 実施主体		直 営		事業開始 年 度		平成14年度		根拠 法令		図書館法第3条				
事業費・財源	財源内訳			平成25年度	平成24年度	比 較		コスト 情報・従事 職員数			平成25年度	平成24年度	比 較	
		事業費 (決算額) (千円)		105	113	-8			総コスト (千円)		9,288	9,282	6	
		一般財源		105	113	-8			事業費		105	113	-8	
		国府支出金		0	0	0			人件費		9,183	9,169	14	
		地方債		0	0	0			公債費		0	0	0	
		その他特定財源		0	0	0			一人あたり (円)		83	82	1	
				0					世帯あたり (円)		197	197	0	
				0					職員数 (人)		1.15	1.10	0.05	
				0					再任用職員数 (人)		0.20	0.20	0.00	
		今後の方向性		時代の変化とともに変わる市民のニーズを反映しつつ、幅広い世代が読書を通じて生涯学習に取り組むきっかけとなるような講座づくりをめざす。										
評価	妥当性		効率性		有効性		対象者	河内長野市民						
	A		A		A									

細事業：図書館ボランティア活動推進事業

市民と図書館司書がともに図書館事業に参加し、協働で「市民の図書館」を育てていくため、ボランティア活動推進事業を行った。

1. 「読み聞かせボランティア講座」(全6回)(参加人数：延べ101人)

児童書に関する知識、選び方、読み聞かせの技術・知識の基礎を学んだ。

2. スキルアップ講座「日本の幼年文学を考えるために」(全3回)(参加人数：延べ87人)

子どもと本をつなぐ活動をするボランティアのスキルアップを目的に講座を開催した。

3. おはなし会の開催(全78回)(参加人数：571人)

読み聞かせボランティアとの協働でおはなし会を開催し、おはなしや読み聞かせ、わらべうた等を楽しんだ。

4. ブックスタート事業への派遣(全18回)(派遣ボランティア 延べ38人)

保健センターの4か月児健康診査で行われるブックスタート事業に、絵本の読み聞かせの実演を目的にボランティアを派遣し、663組に読み聞かせ等を行った。

5. 対面朗読の実施

視覚障がい者等に希望の資料を朗読する対面朗読サービスを実施し、延べ99回の利用があった。

6. さわる絵本・布の絵本の制作

視覚等に障がいのある方でも楽しめる布の絵本をボランティアの協力により、3タイトル制作した。

7. 夏休み高校生ボランティア

高校生ボランティアによる本の配架や整理と、傷んだ本の修理を行った。2人の参加があった。

細事業：読書振興事業

図書館利用の促進と読書の振興を図るため下記の事業を行った。

1. 子ども読書の日「おはなしウォッチング」・読書週間「おはなしウォッチング」(参加人数：延べ96人)

「おはなしのへや」を外から見えるようにして子どもも大人もおはなしなどを楽しんだ。

2. 夏休み子ども科学教室「草木染めに挑戦！」(全1回)(参加人数：10人)

玉ねぎの皮を使って、ハンカチを染色する実験を通して、科学への興味と読書意欲の増進を図った。

3. 「めざせ！図書館マスター」(4回開催)・「図書館探検ブックにチャレンジ！」(配布冊数：112冊)

子ども達が本の探し方の基礎を身につけ、自分で本を探すことで図書館を身近なものに感じてもらった。

4. 「えほんのひろば」

図書館所蔵の絵本を学校等へ持参し、図書館とはひと味違う「えほんの世界」を楽しんだ。キックスエントランス・三田市幼稚園のほか、市内全小学校と2中学校にも出張して開催した。

5. 図書館歴史講座「狩りをするお殿様」(参加人数：60人)・「古文書超入門編」(全2回)「古文書講座入門編」(全3回)(参加人数：延べ218人)・文化遺産講座(全3回)(参加人数：延べ194人)

市史編修の際使用した郷土資料の古文書を活用して郷土歴史講座や古文書を読み解く入門講座を開催するとともに、河内長野の歴史に関する講座や「大阪春秋奥河内特集号」発行記念の講演に参画した。

6. 「生活に役立つ図書館講座」・「図書館連携事業」(参加人数：延べ34人)

「大増税時代を乗り切るマネープラン」と題した講座を開催したほか、創業・教育に関するセミナーを開催し、生活に役立つ情報を提供した。(計3回)

7. 「二市図書館連携講座」(全2回)(参加人数：延べ101人)

広域相互利用実施1周年を記念し、今後の利用促進を図るため、地域発展に貢献する南海電鉄・近畿日本鉄道にまつわる連続講座を富田林市立金剛図書館と共催で開催した。

8. 「赤ちゃんタイム」他の開催

上記講座のほか、親と子のふれあいや赤ちゃんの図書館デビューとなる「赤ちゃんタイム」、市民から提供を受けた本・図書館や公民館図書室などの除籍本の「図書リサイクルフェア」などを開催した。

地域の情報ハブとしての図書館（課題解決型の図書館を目指して） 抜粋

平成 17 年 1 月 28 日 文部科学省 図書館をハブとしたネットワークの在り方に関する研究会

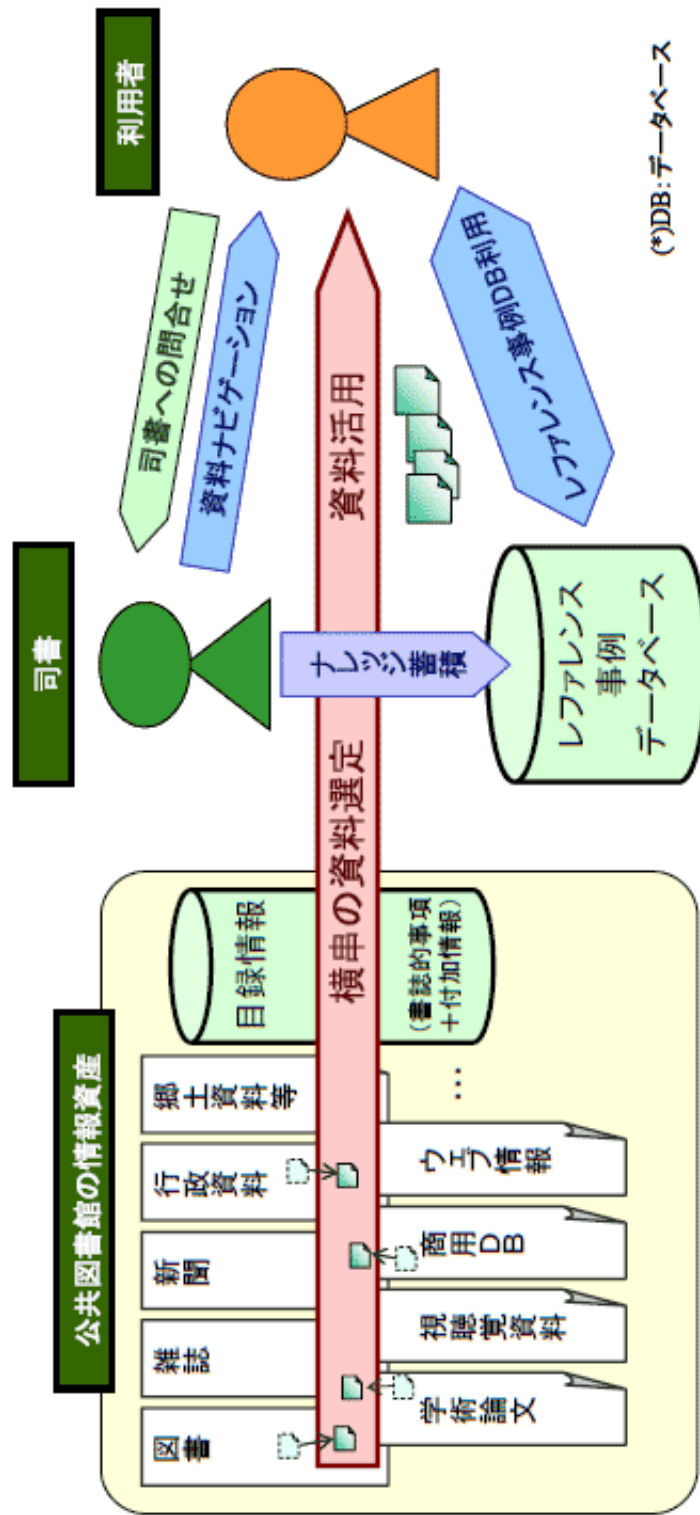


図 4 課題解決型の公共図書館における情報提供イメージ図

事業説明資料

④

事業名称 社会教育課題対応事業

担当課	生涯学習部 ふるさと交流課
事業の 現状と課題	社会教育課題いわゆる現代的課題を学習する機会を、公民館や市民交流センターなどで提供している。教育行政として、市民に学んでもらいたい課題を学習するため、材料費等の実費は参加者が負担するが、講師謝礼については、市が負担している。 子どもを対象とした事業も基本的には同様の考え方で、材料費等の実費を参加者が負担している。また、「公民館こども教室」は、通年の子どものクラブ活動という考えから、講師料も参加者が負担している。 材料費や講師料を負担することで、子どもの体験の機会が奪われている場合があることも否定できない。受益者負担があるために、事業に参加できない子どもの体験の機会を担保する方策が課題である。
要検討事項	「社会教育」事業の内、子どもを対象とした事業では、受益者負担の観点からではなく、等しく教育を受ける権利を保障するという観点を優先できるか。

所管課		生涯学習部ふるさと交流課														
施策の大綱	まちづくりの目標(章)			施策分野(節)			施 策									
	第3章 元気創造都市			04 社会教育			01 人づくりのための仕組みを充実する									
	事業：社会教育課題対応事業											整理番号	0570			
目的	社会教育として教育目標を設定し、急激な社会の変化やその時々課題に、市民が認識をもって対応できるように育成し、地域の教育力の向上を図る。															
目標	社会教育課題を適切に把握し、市民ニーズ・行政ニーズにあった講座等を実施する。また、公民館においては、地域のニーズを把握することにより、各地域との連携を図り、地域課題にあった講座を実施する。															
事業費・財源	事業費(決算額)(千円)		2,614		コスト情報・評価	総コスト(千円)		4,520		総合評価 B 評価理由	妥当性		A			
	財源内訳	一般財源		2,614		内訳	事業費		2,614		効率性		A			
		国府支出金		0			人件費		1,906		有効性		B			
		地方債		0			公債費		0		社会教育課題を適切に把握し、市民ニーズ・行政ニーズにあった講座等を実施した。					
		その他特定財源		0			一人あたり(円)		40							
							世帯あたり(円)		96							
	貢献度	施策に対する事業貢献度		A		根拠	市民がさまざまな社会教育に関する学習を行うことにより、地域への活動に繋がっていく。									
今後の方向性	社会教育において、地域課題の解決に関する学習機会の提供や地域人材の活用は、重要な部分をしめる。今後も、地域課題の把握や地域人材の発掘に努める。															

事業優先順位		3	細事業：こども・青少年対象事業					整理番号	02				
目的		子ども・青少年や親子を対象に、市民の社会教育活動を推進するため、学習や体験の機会を提供すること											
目標		子ども・青少年や親子が参加できる講座、講習会、体験活動等を公民館で行う。また、子どもが年間を通じて活動できる「公民館こども教室」を開催する。											
事業実施主体		直営	事業開始年度	昭和52年度	根拠法令								
事業費・財源	財源内訳			平成25年度	平成24年度	比較	コスト情報・従事職員数			平成25年度	平成24年度	比較	
		事業費（決算額）（千円）		260	272	-12		総コスト（千円）		717	669	48	
		一般財源		260	272	-12		内訳	事業費		260	272	-12
		国府支出金		0	0	0			人件費		457	397	60
		地方債		0	0	0			公債費		0	0	0
		その他特定財源		0	0	0			一人あたり（円）		6	6	0
				0				世帯あたり（円）		15	14	1	
				0				参考	職員数（人）		0.06	0.05	0.01
				0					再任用職員数（人）		0.00	0.00	0.00
		今後の方向性		子どもの体験活動の場を、引き続き確保し、参加者が増えるように、積極的に広報活動を行う。									
評価	妥当性	効率性	有効性	対象者	河内長野市民（子ども・青少年・親子）								
	A	A	B										

事業：社会教育課題対応事業

急激な社会の変化やその時々課題を、市民自らで解決することができるよう、社会教育の視点から市民への学習及び啓発の機会を提供した。

社会教育として教育目標を設定し、急激な社会の変化やその時々課題に、市民が認識をもって対応できるように育成し、地域の教育力の向上を図った。

細事業：こども・青少年対象事業

1. 公民館における子ども対象事業（通年分）

公民館において、子どもたちが年間を通じて活動できる「公民館こども教室」を実施した。

公民館名	講座名	開催日（毎月）	のべ参加人数
川上	簡単おやつ教室	第1日曜日	89
加賀田	ジャズダンスクラブ	第1・3土曜日	459
加賀田	キッズステップダンス教室	第1・2・3日曜日	602
高向	硬筆ペンギンクラブ	第1・3土曜日	381
高向	小学生まんが道場	第2土曜日	138
高向	中学生まんがクラブ	第2土曜日	41
千代田	工作教室	第2土曜日	130
三日市	書道教室	第2・4土曜日	308
三日市・高向・南花台	こども農園（花の文化園共催）	第2土曜日	62
天見	陶芸教室	第4土曜日	133
天野	キッズヨーガ教室	第2・4土曜日	139
天野	おもしろ科学実験・科学工作教室	第4土曜日	125
南花台	話し方教室	第4日曜日	60

2. 公民館における子ども対象事業

夏休み等の長期休業中や休日に、工作教室や絵画教室などを実施し、こどもの体験・活動の場を提供した。

川上公民館	「色鉛筆で夏の虫を描こう」ほか1講座	のべ 29名参加
加賀田公民館	「水辺の生き物探偵団」ほか2講座	のべ 71名参加
高向公民館	「ペットボトルと紙粘土でつくる貯金箱」ほか3講座	のべ 117名参加
千代田公民館	「ちりめんモンスターを見つけよう」ほか3講座	のべ 354名参加
三日市公民館	「パッチワーク教室」ほか1講座	のべ 33名参加
天見公民館	「夏休み囲碁・将棋教室」ほか3講座	のべ 74名参加
天野公民館	「オリジナルアクセサリを作ろう」ほか2講座	のべ 52名参加
南花台公民館	「子どもシェフのおいしいレシピ」ほか3講座	のべ 51名参加

紙コップロボットを作ろう



レザークラフト教室



事業 優先順位		1 細事業:地域の学習拠点づくり事業				整理 番号		03				
目 的		公民館が地域における社会教育活動の学習拠点となるような事業展開を図る。										
目 標		公民館において、地域の課題解決のための講座、地域を知るための講座や地域人材を講師とする講座を開催する。 また、地域にある施設としての公民館の役割を果たすため、様々な社会教育課題を解決するための講座を開催する。										
事業 実施主体		直 営	事業開始 年 度	昭和52年度	根拠 法令							
事業費・財源			平成25年度	平成24年度	比 較		コスト 情報・従事 職員数			平成25年度	平成24年度	比 較
	事業費 (決算額) (千円)		762	900	-138			総コスト (千円)		1,219	1,297	-78
	財源内訳	一般財源	762	900	-138			内 訳	事業費	762	900	-138
		国府支出金	0	0	0				人件費	457	397	60
		地方債	0	0	0				公債費	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0				一人あたり (円)	11	11	0
			0			世帯あたり (円)			26	28	-2	
			0			職員数 (人)			0.06	0.05	0.01	
			0			再任用職員数 (人)			0.00	0.00	0.00	
	今後の方向性		各地域においても課題が必ず存在するので、地域との連携強化に努め、様々な課題解決のための事業を実施する。また、公民館利用者が、公民館で学んだことなどを、子どもたちや地域活動に還元できるような取組みを行っていく。									
評 価	妥当性	効率性	有効性	対象者	河内長野市民							
	A	A	B									

事業 優先順位		4 細事業:いきいき講座				整理 番号		04					
目 的		市民の社会教育活動を推進するため、現代的課題に関する学習機会を提供すること											
目 標		現代的課題に関する課題をテーマに、5回シリーズの講座を年2回開催する。											
事業 実施主体		直 営	事業開始 年 度	平成15年度以前	根拠 法令								
事業費・財源	財源内訳			平成25年度	平成24年度	比 較	コスト情報・従事職員数			平成25年度	平成24年度	比 較	
		事業費 (決算額) (千円)		300	303	-3		内 訳	総コスト (千円)		376	700	-324
		一般財源		300	303	-3			事業費		300	303	-3
		国府支出金		0	0	0			人件費		76	397	-321
		地方債		0	0	0			公債費		0	0	0
		その他特定財源		0	0	0		一人あたり (円)		3	6	-3	
				0				世帯あたり (円)		8	15	-7	
				0				参 考	職員数 (人)		0.01	0.05	-0.04
				0					再任用職員数 (人)		0.00	0.00	0.00
		今 後 の 方 向 性		市民が気軽に現代的課題を学習する機会であるので、今後もテーマ設定等を工夫しながら、継続する。									
評 価	妥当性	効率性	有効性	対 象 者	河内長野市民								
	A	A	B										

細事業：地域の学習拠点づくり事業

1. 地域の学習拠点づくり事業

公民館が、地域での学習拠点となるように、統一のテーマで実施する「公民館リレー講座」や各地域の課題について考える講座等を実施した。また、地域住民を講師にむかえた講座や小学校への「出前講座」も実施した。

川上公民館	「男性限定講座 元気だ！ペンキだ！」ほか14講座	のべ参加者数	1,077名
加賀田公民館	「自主防災の立ち上げに向けて」ほか4講座	のべ参加者数	161名
高向公民館	「味噌作り」ほか5講座	のべ参加者数	95名
千代田公民館	「認知症講演会」ほか9講座	のべ参加者数	1,078名
三日市公民館	「パソコン講座はじめてのインターネット」ほか8講座	のべ参加者数	176名
天見公民館	「コミュニケーションの花、咲かせませんか」ほか13講座	のべ参加者数	214名
天野公民館	「生活の中の危険を考える」ほか16講座	のべ参加者数	308名
南花台公民館	「家族でできる介護」ほか19講座	のべ参加者数	752名

天見の白みそ作り



家族でできる介護講座
～プロに学ぶ介護のコツ～



細事業：いきいき講座

1. いきいき講座

市民の社会教育活動を推進するため、現代的課題に関する学習機会として、「いきいき講座」を開催した。

(1)前期 テーマ『人生のターニングポイント～わたしの人生を変えた瞬間・ひとこと～』

- | | | |
|---|------|------|
| ①「春野恵子の浪曲一直線！～女優の道からビビッときて～」 | 参加者数 | 122名 |
| ②「私にしか書けないものがある～反響の乏しいテーマを追う勇気～」 | 参加者数 | 122名 |
| ③「男子厨房に入る！～育児・家事・介護に関わって～」 | 参加者数 | 98名 |
| ④「東日本大震災の復興活動を通してみえたこと
～私の人生を変えた多くの出会い～」 | 参加者数 | 111名 |
| ⑤「人生、太く長く、生涯現役～万事如意～」 | 参加者数 | 99名 |

(2)後期 テーマ『わたしの座右の銘』

- | | | |
|--------------------------------|------|------|
| ①「織田作之助の世界～腹ペコの人間の感覚～」 | 参加者数 | 133名 |
| ②「美味しく食べてイキイキ健康！～野菜でアンチエイジング～」 | 参加者数 | 134名 |
| ③「イクジイになろう！～今どきの子育て・今どきのパパ～」 | 参加者数 | 109名 |
| ④「健康と体力を維持するには～頭もからだも動かして～」 | 参加者数 | 144名 |
| ⑤「師匠 笑福亭松喬の教え～弟子修行あれこれ～」 | 参加者数 | 125名 |

事業 優先順位		2 細事業:家庭教育・子育て支援事業					整理 番号		08		
目 的		家庭での教育力の向上のため、地域での子育てを支援するため。									
目 標		公民館や子ども・子育て総合センターにおいて、子育て講座や親楽習を開催する。また、各PTAと協働での家庭教育講座や新小学1年生の保護者向けの子育て講座を開催する。									
事業 実施主体		直 営	事業開始 年 度	昭和52年度		根拠 法令					
事業費・財源			平成25年度	平成24年度	比 較	コスト情報・従事職員数 内 訳 参 考			平成25年度	平成24年度	比 較
	事業費 (決算額) (千円)		965	1,047	-82		総コスト (千円)		1,422	1,444	-22
	財源内訳	一般財源	965	1,047	-82		内 訳	事業費	965	1,047	-82
		国府支出金	0	0	0			人件費	457	397	60
		地方債	0	0	0			公債費	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0			一人あたり (円)	13	13	0
			0					世帯あたり (円)	30	31	-1
			0					職員数 (人)	0.06	0.05	0.01
					再任用職員数 (人)		0.00	0.00	0.00		
	今後の方向性		学習機会を減らすと、参加する機会を減らすこととなるので、市民交流センター、公民館などにおいて、学習機会の提供を続け、広報方法等を工夫する。また、地域住民に対しても、積極的に家庭教育支援に参加してもらうため、講座等を実施する。								
評 価	妥当性	効率性	有効性	対象者	河内長野市民						
	A	A	A								

事業 優先順位		5 細事業：一般対象事業				整理 番号		10						
目 的		市民を対象に、社会教育を推進するための現代的課題に関する学習機会を提供すること												
目 標		公民館において、現代的課題に関する講座を開催する。												
事業 実施主体		直 営		事業開始 年 度		昭和52年度		根拠 法令						
事業費・財源	財 源 内 訳			平成25年度	平成24年度	比 較		コ ス ト 情 報 ・ 従 事 職 員 数 内 訳 参 考			平成25年度	平成24年度	比 較	
		事業費（決算額）（千円）		327	269	58			総コスト（千円）		784	666	118	
		一般財源		327	269	58			事業費		327	269	58	
		国府支出金		0	0	0			人件費		457	397	60	
		地方債		0	0	0			公債費		0	0	0	
		その他特定財源		0	0	0			一人あたり（円）		7	6	1	
				0					世帯あたり（円）		17	14	3	
				0					職員数（人）		0.06	0.05	0.01	
				0					再任用職員数（人）		0.00	0.00	0.00	
		今 後 の 方 向 性		現代的課題を学習する機会を提供することは重要なことであるため、広報方法等を工夫しながら、事業を継続する。										
評 価	妥 当 性		効 率 性		有 効 性		対 象 者	河内長野市民						
	A		A		B									

細事業：家庭教育・子育て支援事業

1. 親楽習（おやがくしゅう）事業

(1) 子育て中の保護者を対象とし、子ども交流ホールにおいて、3回実施。

(2) 小・中学生に対する親楽習講座の実施。

【小学校】加賀田小学校5年生・6年生

【中学校】美加の台中学校1年生・千代田中学校3年生・東中学校1年生・西中学校1年生

(3) 市PTA母親部会において実施。

(4) ママc a f e (かゐ)参加者を対象に実施。

2. 公民館における家庭教育・子育て支援事業

公民館において、子育て中の親が参加できる講演会や講習会を実施し、親同士の交流を図る機会を提供した。事業実施の際には、保護者が参加しやすいように一時保育もあわせて実施した。

加賀田公民館	「子育てわいわいルーム」	参加者数	のべ 60名
高向公民館	「エンジョイ子育て」	参加者数	17名
千代田公民館	「はじめてのコモンセンスペアレンティング」ほか2講座	参加者数	のべ188名
三日市公民館	「親子でつくるクリスマス3Dごはん」ほか2講座	参加者数	のべ200名
天野公民館	「ちょっと得する子育てのコツ」	参加者数	12名
南花台公民館	「今日から私もゆったり育児」ほか2講座	参加者数	のべ175名

3. PTAとの協働による家庭教育講座

15小中学校園において実施 参加者数 6,096名

4. 新小学1年生の保護者を対象とした「子育て学習」事業

12小学校において実施 参加者数 684名

5. 子ども・子育て総合センターとの共催事業

就園児以上の子どもをもつ保護者を対象とするサークル活動の支援を行い、「先輩ママ」のネットワークを構築するとともに、将来的に、「先輩ママ」として、地域での子育て支援の担い手となる人材育成のための事業を実施した。

「ママc a f e (かゐ) ～ちよっぴり先輩ママのサークル活動」

23名参加

絵本の読み聞かせ
講座



親楽習



細事業：一般対象事業

1. 一般対象事業

公民館において、市民を対象に、社会教育を推進するための現代的課題に関する学習機会を提供した。

川上公民館	「やさしい相続・遺言状の話」ほか1講座	参加者数	のべ 53名
加賀田公民館	「郷土の歴史を学ぶ 幕末維新伝 天誅組」ほか5講座	参加者数	のべ 77名
高向公民館	「アロマとかんたんリンパマッサージ」ほか3講座	参加者数	のべ100名
千代田公民館	「コウボ（酵母）生活のススメ」ほか1講座	参加者数	のべ 54名
三日市公民館	「お正月料理教室」ほか1講座	参加者数	のべ 56名
天見公民館	「シニアの健康講座 ラジオ体操と健康空手」ほか1講座	参加者数	のべ 39名
天野公民館	「家庭のできる食中毒撃退のイロハ」ほか6講座	参加者数	のべ112名
南花台公民館	「女性力アップ講座」ほか1講座	参加者数	のべ 64名

平成26年度

公民館こども教室

新年度参加者募集!

《平成26年5月開講》

※持ち物などの詳細は 各公民館にお問合せください。
※申込みが定員(下限)未満の場合は開講しない場合があります。

公民館こども教室参加者の保護者のみなさまへ

- お子さまは、保護者の方が責任をもって送迎してください。
- 公民館は公共施設ですので、公民館事業や市の事業が活動日と重なった場合は、活動場所や時間の振替、また場合によっては休止する場合がありますのでご了承ください。
- なお、変更等がある場合は、事前に公民館から連絡いたします。
- 公民館こども教室は、学習塾・カルチャースターではなく、こどもの体験の場です。館外で通用する資格や免状の発行はありませんのでご注意ください。

☆締切り後に定員に空きがある場合もあります。
各施設にお問合せください。

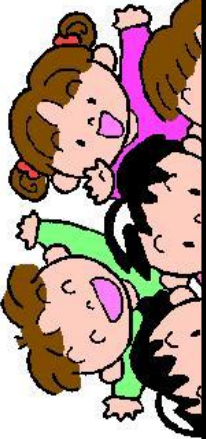
天野公民館	天野町1520-5 / TEL 55-6191
高向公民館	高向515-3 / TEL 54-4548
天見公民館	岩瀬1244 / TEL 63-4074

千代田公民館	木戸西町1-2-9 / TEL 55-1125
川上公民館	〒586-0053 寺元501 / TEL 65-1612
三日市公民館	〒586-0048 三日市町288-1 / TEL 62-6155

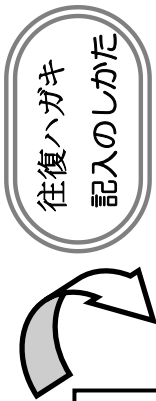
《申込先住所一覧》

加賀田公民館	加賀田617-4 / TEL 62-2116
南花台公民館	〒586-0071 南花台8-4-1 / TEL 63-1131

- ◎ 受講を希望する公民館へ必ず**往復ハガキ**で**郵送**でお申込みください。
- ◎ 応募者多数の場合は抽選します。結果は**返信ハガキ**でお知らせします。
- 《昨年度、同じ教室があった場合は、未受講者を優先しますので、ご了承ください。》



参考資料



※この面は白紙で

返信

注意

※「様」付けで記入願います

586-0000 河内長野市 〇〇〇〇〇〇 様

586-0000 河内長野市 〇〇〇〇〇〇 様

【希望の教室名】係

希望の教室名
住所
氏名(よみがな)
性別
学校名・学年
電話番号

※申込みハガキ1枚につき、
参加者1名・1講座のみ。
※兄弟姉妹でまったく同じ教室に
参加の場合のみ複数名記入可。

4月1日から、はがきの郵便料金は**52円**になります。

しょうがくせい 小学生まんが道場

四コマまんがを描きます
開講日 5月10日(土)
毎月第2土曜日 10:00~11:30
対象:小学3年生~6年生
※低学年の場合でも、ご相談に応じる場合があります
定員15名
参加費(月額):700円
場所:高向公民館

ちゅうがくせい 中学生まんがクラブ

マンガの専門的な技術を指導します
開講日 5月10日(土)
毎月第2土曜日 13:00~14:30
対象:中学1年生~3年生
定員15名
参加費(月額):700円
場所:高向公民館

こうひつ 硬筆ペンギンクラブ

硬筆の基礎を学びます
開講日 5月17日(土)
毎月第1・3土曜日 9:30~11:30 (2部制)
9:30~10:30(低学年) 10:30~11:30(高学年)
対象:小学1年生~6年生
定員20名
参加費(月額):1200円
場所:高向公民館

きょうしつ キッズヨーガ教室

体力・集中力を身につけ、姿勢を矯正します
開講日 5月10日(土)
毎月第2・4土曜日 10:30~11:30
対象:小学1年生~6年生
定員15名
参加費(月額):1000円
場所:天野公民館

かがくきょうしつ おもしろ科学教室

驚きと感動を与える
さまざまな科学の実験をします
開講日 5月17日(土)
毎月第3土曜日 10:00~11:30
対象:小学1年生~中学生
定員15名
参加費(月額):1000円
場所:天野公民館

こうさく きょうしつ 工作教室

身近にある材料を使って
おもちゃを作り、遊びます
開講日 5月10日(土)<5月~翌2月>
毎月第2土曜日 13:30~15:00
対象:小学1年生~3年生
定員15名
参加費(月額):500円
場所:千代田公民館

かしきょうしつ お菓子教室

お菓子作りを通して食への興味を喚起します
開講日 6月1日(日)
毎月第1日曜日 9:00~12:00(8月はいりません)
対象:小学4年生~中学生
定員12名
参加費(月額):1000円
場所:川上公民館

どうばい きょうしつ 陶芸教室

ねんどで動物やクリスマスツリー・鈴・シーサーなど
いろいろな物を作ります
開講日 5月25日(日)
毎月第4日曜日 13:00~15:00
(10月はいりません)
対象:小学1年生~6年生
定員16名
参加費(月額):1200円
場所:天見公民館

ジャズダンスクラブ

ジャズダンスの基本から
曲にのって踊れるようになるまで
開講日 5月10日(土)
毎月第2・4土曜日 11:00~12:00
対象:小学1年生~6年生
定員20名
参加費(月額):1000円
場所:加賀田公民館

きょうしつ キッズステップダンス教室

リズムダンスの基本から
曲にのって踊れるようになるまで
開講日 5月18日(日)
毎月第1・3日曜日 10:30~11:30
対象:小学1年生~6年生
定員25名
参加費(月額):1000円
場所:加賀田公民館

トークレズン

ホイストレーニングや表現力を楽しく学び
コミュニケーション能力を高めよう!
開講日 5月25日(日)
毎月第4日曜日 10:00~11:30
対象:小学4年生~中学生
定員15名
参加費(月額):500円
場所:南花台公民館

しょうどう きょうしつ 書道教室

集中力を身につけ、字の美しさを味わい
楽しく文字を書く力を養います
開講日 5月10日(土)
毎月第2・4土曜日 9:30~11:00
対象:小学3年生~6年生
定員20名
参加費(月額):1000円
場所:三日市公民館

はなぶんこうきょうしつ 花の文化園共催子ども農園教室

野菜の栽培から収穫までを
一年を通して実際に体験します
※教室は”花の文化園”で開催します
開講日 5月10日(土)
毎月第2土曜日 10:30~11:30
対象:小学1年生~6年生
(小学1・2年生は保護者同伴)
定員20名 ※5名以下の場合には実施しません
参加費(月額):1000円
申し込み:三日市公民館

この冊子の発行元：

「公開事業評価（かわちながの版外部行政評価）」事務局

河内長野市役所 総務部 行政改革課（市役所4階）

〒586-8501 河内長野市原町一丁目1番1号

TEL（0721）53－1111（代表）

E-mail：gyoukaku@city.kawachinagano.lg.jp



※この冊子は市役所内で印刷しています。